

# 平成 6 年度瀬戸内海東部海域赤潮広域共同調査（抄録）

酒井 基介・湯浅 明彦・牧野 賢治

## 目 的

本調査は東部瀬戸内海の水塊構造と水塊の動き, シャットネラ栄養細胞の初期発生と増殖及びその他のプランクトンの動向について全体像を把握し, 赤潮発生要因を明らかにすることによって赤潮発生予察技術の確立を図ることを目的としている。その為に, 播磨灘関係 4 県, 水産庁及び民間調査会社の各機関と一斉共同調査を実施する。昭和 63 年から平成 5 年まで実施した東部瀬戸内海シャットネラ赤潮広域共同調査を継承するとともに, 新たに秋冬期の藻類養殖に被害を与えるコスシノディスカスを調査対象として加えた。

平成 6 年度における徳島県担当水域である播磨灘南東部での気象, 海象及びプランクトンの出現動向について取りまとめたのでその概要を報告する。なお, 詳細については「平成 6 年度赤潮対策技術開発試験（海域特性による赤潮被害防止技術開発試験）瀬戸内海東部海域赤潮広域共同調査報告書」を参照されたい。

## 1 気 象

本年夏期の気象は長期にわたる高温・少雨で推移し, 日照時間は平年に較べて多かった。台風が接近通過した 7 月 25 日と 8 月 13 日の前後にまとまった降雨があったが, 6 月から 8 月の降水量は平年比 50%程度であった。

## 2 海 象

6 月下旬から 8 月中の水温は平年に較べてかなり高く, 表層で 3~4℃, 30m 層で 2~4℃ 平年値を上回る日が続いた。塩分は少雨の影響もあって, 表層では 6 月下旬の 31.8 前後から 8 月下旬には 32.3 前後まで上昇した。30m 層では 32.2 から 32.4 の範囲で推移した。鉛直混合は 7 月下旬と 8 月中旬の台風接近通過時, および 8 月下旬の荒天時に見られた。

## 3 プランクトンの出現動向

Chattonella の最高出現数は 0.49cells/ml (7 月 14 日) と非常に少なく, 6 月下旬から増殖がみられ 7 月中旬にピークを示した。7 月下旬に減少するとともに色調の淡い個体が見られるようになり, 以降まれに検出される程度で推移した。期間を通じてほとんど珪藻類が優占種であったが, 7 月下旬から 8 月上旬にかけて沖合域では Gymnodinium mikimotoi が優占し, 最高 142cells/ml 検出された。また, 沿岸域では 7 月下旬と 8 月中旬の鉛直混合後に珪藻類の著しい増殖が見られた。